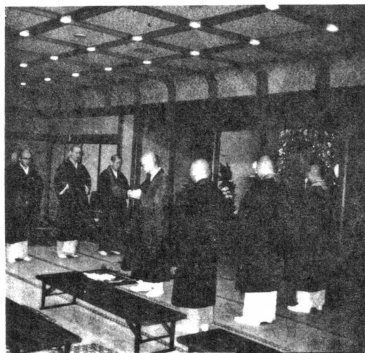


平成元年度 全国曹洞宗青年会総会開催

新会長に 伊藤道宣君

第八期執行部発足



▲総会前の本尊上供



▲総会

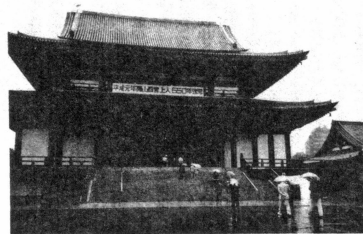


発行所
全国曹洞宗青年会
〒105 東京都港区芝
2-5-2 曹洞宗宗務所内
発行責任者 伊藤道宣
TEL.03-454-5411P

青年僧侶のエネルギーを結集しよう
社会的価値ある活動をしよう
青年僧侶の自覚を促そう
地域における活動の連携を深めよう

目次

総会特集	1
総会報告	2・3
総会資料	4



▲増上寺

総会に引き続いて行なわれた「禅の集い中央研修会」は愛知県一宮市恵林寺にて

禅の集い中央研修所

去る五月十日午後一時から宗務庁に於いて、朝日教化部長、桜井五代会長、吉岡六代会長、御臨臨のもと、全国より百二十余名の会員諸兄の出席を得て、全国曹洞宗青年会総会が開催された。今回の総会は定例の事業会計の報告に加え、新執行部の選出が最大の課題であった。会長の選出は規約細則第三号にもとづき先に選考委員会(中島季雄委員長)が開催された。

徹間口道潤師により、「廣福寺蔵三十五條衣に就いて」(日本曹洞宗初期教団における法衣の研究)と題して講演が行なわれ、翌十一日には芝公園にある浄土宗大本山増上寺と千駄ヶ谷にある財団法人修業団を見学した。



▲修業団見学



▲講演する関口道潤師

破草鞋

リクルート事件を契機に、竹下首相が退陣に追い込まれ、政治の浄化が大きく叫ばれている。噴出した自民党批

判政治不信から、国民の信頼を回復するには、その任にふさわしい人物を選ばねばならぬ。派閥やカネ、選挙制度といった政治の在り方を、抜本的に改革してくれる、清廉潔白な人材を求めたいのが、大方の意見のようだ。

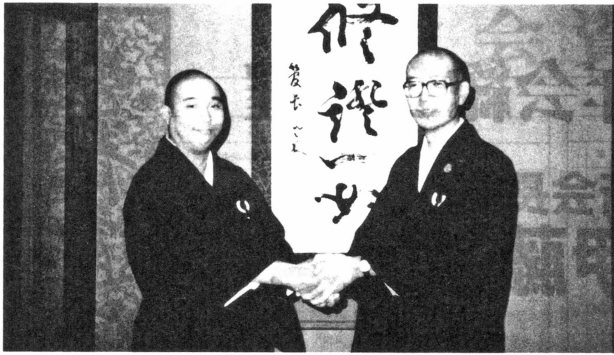
とき同じくして、曹洞宗議会も改選期を迎え、愛宗護法の会篤き諸老師が講義を聴いた。宗教者間の選挙とはいえず、政策論争の外に派閥やカネといった政治と酷似した体質への批判もあやに聞く。

そして全曹青も第八期を迎え、刷新された執行部によって二年間のスタートを切った。低俗な選挙をなくすようにと作られた、役員選挙に関する規約に従って選ばれたのが、伊藤道宣会長外役員諸兄。

伊藤新会長は、総会の席上「全国青年会の名前の通り、全国の青年会を網羅した真の組織とすることを今期の題目とする」と堂々と宣言されたが、役員名簿には北海道、熊本といった、久方ぶりに聞く地域名があり、今期の地固めが着々と進んでいるのが伺えた。

総会に全国各地から参集した百名を超す会員の思いは、全曹青会長にふさわしい人選を行った今、全会員が一致協力して会の発展に寄与することで統一されたはず。

「清風匠地」の如く、結果に心を奪われることなく、真摯な、そしてエネルギーな活動を行ってほしいことを、第八期執行部に願って止まない。



第7期神野会長(右)より第8期曹青を引き継ぐ伊藤新会長(左)



伊藤道宣新会長

青年僧侶の自覚を促そう

総会所信表明より

狂瀾怒涛の時代、よく偉人を生み、偉人又時代の声を聞いて、歴史の流れに、一転機を画すしと聞きます。殊に、宗教の偉人は、常人の窺い得ざる秘奥を徹見し、良く時代の進むべき方向を示し限り無き徳化を与えて、人心の掃蕩を明らかにしたのであります。真実の仏法を、生きた人格に全現せしめんが為、全国曹洞宗青年会を発足させ、確立ならしめた、歴代会長、並びに、先輩会員諸師に、深く敬意を表するものであります。

一昨年、千僧法要準備の為、奈良に参りました。会議の席上、奈良仏教の青年僧侶が、奈良の伝統仏教が、千二百年間出来なかった千僧法要を、お前達に出来るのか?とでも言わねばかまりに、我々に対し、鎌倉の新興仏教」と言ひ、言い方をし参りました。

当日、御参加頂いた方ばかりです、言うまでもありませんが、あの東大寺大仏殿の境内を埋め尽くしたのは、南都六宗でも、真言でも、天台でも、浄土でも、法華でもなく、黒衣、木蘭に身を包んだ我々、全曹青の会員であります。言い換えれば、現在日本で千僧法要を企画、実現出来る力を有する者は、唯一、全曹青しかない、と言うことであります。

然し、その全曹青は、単位曹青の集合体であります。そしてその単位曹青の多くが、全曹青より長い活動の歴史を有して居るのであります。故に、全曹青何者ぞ、の気運が一部地方曹青に有ります。

第八期は、**〆**、単位曹青加盟による、全曹青、と言ふ、第六期以来の懸案達成を第一目標として、邁進努力して参ります。此処に私が、あえて第六期と申し上げたのは、衆知の如く、全曹青が団体加盟を導入したのが、第六期で有るからであります。この団体加盟の導入により、全曹青は飛躍的な発展を遂げました。然し、この方式は、全曹洞宗青年会加入の為の、一方便でなくてはならないはずであります。何故ならば、全曹青は、全国一万余の海門寺院の淨財からなる本庁予算より、一千万に余る助成を受けて成立している、唯一の青年会組織だからであります。全曹洞宗、青年僧侶が共に協力しあつて、より一層の教化活動を支なければ、これを支える、八百萬とも、一千万とも言われる檀信徒に対し、何と申し聞きますのであります、来ようや。

将来、曹洞宗に僧籍を持つ四十歳未満の宗侶は、宗費と共に、青年会費を取らなければ成らない、と言ひ、言わば、曹洞宗青年会に於ける、必修のような青年会活動を行わなければ成らないのであります。この点に就いて、いさかか構想を述べさせて頂くならば現在、欧米各地で、著名な建築家等により、全く新しい住居地区建設が行われています。彼等が真先に建設する公共施設とは何か、それは教会であります。住民の心の安らぎの場として、真先に提供される場所が、教会なのです。我が国においても、新しい住居地区の建設は頻りに行われて居ます。然し、誤つた政教分離政策の為に、提供される公共施設とは、緑の有る公園、一辺倒であります。日本人の心安らぎの場とは、緑の有る公園、なのであります。否、我が曹洞宗寺院を、外に有らう筈が有りません。曹洞宗寺院は、餌を喰ふ者に、病める者に、菓

を与え、その上で、神の御心を説いたのであります。我々は公共団体の青年会では有りません。曹洞宗の宗侶ならば、両祖の教義を以て、教誨補充するのは、当然の義務であります。住民の中には年長者もあり、先祖の供養をしたい人も有る、慕ふ欲しい、でもその施設は全くない。これが現状であります。ならば何故、その人達にその場を提供しないのか?、そして其の上で、教義を説かないのか?

言葉を変えて、我々会員の中にも、僧堂には行つたけど、と言ふ言葉を聞きます。送迎した翌日から必要なものは、行鉢でも、坐褥でも、講式でもなく、葬儀法であり、施食法であり、点眼法であり、折禱法であり、つまりは施主法要をのみで行つて、ましてや急に師匠をくし、僧堂にも行けず、取敢えず施主法要を覚えなければ成らない会員も有るはずで、宗門として、教義も教えず施主法要だけを教える事は出来ない事かも知れません。然し、今此処に、それを必要とする、住民、と言ふ大衆と、曹洞宗青年会があるのです。

我が全曹青の基本的課題は、大衆教化の接点を求めて、有ります。あの、奈良博覧會と言ふ偉業をなし遂げた全曹青が、この一番に、行動を興さなければ宗教者として、教化宗門として、一体誰がこの問題に対処出来るのであります。来ようや、然し、其には莫大な費用が必要で、建設計画面から参画し、受益者から淨財を頂き、必要とあらば全国でその為の托鉢を重ね、出版物も出し、考えられる限りの努力をして行かねば成らないで、一部から、全曹青は、金儲け集団、との批判を浴びる事です。然し、そうした活動を重ね、青年会独自の道場を持つことは、一地方曹青の事業ではなく全曹青の責務であり、未来に向かつての全曹青の使命だと考えます。今、此れは単なる私の個人的な構想に過ぎず、今後、役員一同、慎重に協議し、何れも役員諸師に御報告申し上げる場を持ちたいと存じます。

平成元年度をもちまして、全曹青は発足十五周年を迎えます。人はよく、全曹青でして十五年、と申します。然し、私はあえて申します。全曹青、僅かに十五年、よ、とまで、とあり、とあらためて、先輩諸師の御尽力に、只々、敬服するばかりで有ります。既にここまで作り上げられた偉大な全曹青を相続し、且つ、これを発展せしむるには、不退転の努力を絶対必要とし、特に心の機微をふまへ、その掃蕩を示し、無限の法悦を有する青年会活動に於いては、この感を深くするものであります。

第八期、役員一同、急速な発展を遂げたが故に置き去りにされて参りました細々とした諸問題を、掃し、先程の構想等、十年、二十年、そして百年先の青年会のために其の布石ならんと、覚悟致しました。

役員諸師には第八期のこうした活動に対し、全曹青百年の大計の爲と御理解頂き、絶大な御支援を賜りますよう、お願い、御挨拶と致します。

第八期全国曹洞宗青年会

本部役員	会長 伊藤道宣(愛知三)	副会長 伊藤充伸(鳥根二)	長 長井俊英(佐賀)	事務局長 渡本俊昭(愛知三)	事務局長 田中良宗(北海道三)	事務局長 山村直高(愛知三)	監査 清水昭信(愛知二)	監査 哲川哲一(愛知二)
理事	東 小原宣弘(愛知一)	関 加藤貴昭(京二)	近 藤田泰成(鳥根二)	中 岩田俊弘(四国)	中 藤村和光(熊本)	北 西村典道(新井)	東 三井悦道(尼僧団)	東 松田加盟
評議員	神奈川 第一 未加盟	埼玉 第一 福田竜倫	群馬 第二 渡辺啓司	栃木 未加盟	茨城 高津憲業	山梨 青藤孝光	山梨 小原孝道	静岡 鏡島元昭
	静岡 中部 浅井正英	静岡 東部 山本孝道	静岡 中部 田中恒敏	静岡 東部 石崎正信	愛知 第一 伊藤正康	愛知 第二 戸田俊晴	愛知 第三 村瀬俊高	



事務局長 渡津法晃



総合企画 委員長 村松延行



事業研修 委員長 村田和彦



組織委員長 平清水公宣

二年間、事務局を務めていただき、二年という期間は一つの仕事を成すに短くもあり、長くも有るという感じが致します。しかし人は、生まれてから死ぬまでの短い時間だけを切りとって自分の人生を考えるなら、これはいかに無理不届な、はじめから奪いとられた時間のよみにまはまが、この不思議な永劫の時間、そして自分の運命を決定づけているゆゑの偶然私の財産を考えたらどうでしょう。生まれたヒトが戰場であったか、砂漠であったか、寺だったか、貧乏だったか、豊かだったか、すべて偶然がこの手の中にかんてじつくり見つめてみたら、人は過去からも運命からも、もつと自由になれるかも知れません。各単位曹青、各委員会の「聖」となるような事務局の会員諸師の御協力にて運営させていただきました。

第八期曹青執行部も終りに於いて承認され活動始めるにあたり、総合企画委員会で各委員の方針を、事業研修、組織・広報各委員会に対し連絡調整を行うという重要な役割を持つていられるわけであり、この重要な方針の中心であります。地に足のついた活動ふたえまの組織の拡充が急務であり、未加入団体への呼び掛け員名簿の整理と新聞寺院に向けてのアピール等団体加盟五年目、青盟団体のびらなると全国寺院分支部青年僧侶のきた活動少しも理解いたなければ今更な飛躍が望めるのではなからうかと思ふ。又各委員会が充分な活動ができる積極的見地から、まとまりのある全曹青なるよう注視して、いかなければなりません。又十周年の節目の本年、意義ある活動を展開していかなければなりません。

古より、習うより慣れぬという諺のある通り、事業を実践する場が自らの研鑽を積む場であり、各単位の曹青は、その先達諸兄が企画立案された単位の大会事業等を遂行された実践教育の智慧の宝蔵であります。その英智と精進努力の結晶である各曹青の事業の中には、記念大等の様にただ一回の開催で成りお蔵入りしている物もありません。各地の曹青の様な過去に事業に再びスポットライトを当てて、大会の資料を収集編集し、大衆教化を願う曹青の貴重なる共有財産として、この情報資料を供与したいと考えております。それに比較検討を加えて戴き、各団体の今後の大会、事業の活動に活用されに発展させたいと願ひます。また、各地の大会の資料収集編集事業を推奨して行きたいと考えております。

二十一世紀を目前とむかへ、我々をとりまく社会的環境は厳しく移り変わって参ります。しかしこのような時代であるからこそ宗教人としての真価を問われる時でもあります。我々は宗教、宗門を担う青年宗侶としての自覚とともに、文化社会をリードする者として気概と情熱を結集すべきであります。それには欠けることなく全国一九とつて共に地域に根ざした運動展開を目指すべきであると考へます。第八期の組織委員会としては、七期を受けて、全国加入の目的を実現すべく精杯の努力を遂行し覚悟を以て、共に語り合える委員会であればと考えております。全国曹青の充実と全国加入が実現されますよう、皆様の御指導、御協力を心よりお願い申し上げます。

退任にあたり

全国曹洞宗曹青年会

第七期会長 神野 哲州



全国曹洞宗曹青年会の第七期を執行させていただきました。長そして短い二年間でした。数々の協力をいただきました。皆様に心より感謝いたしております。全曹青と私の出会いはもう十四年も前になり、まず設立総会でした。熱意溢れる門脇初代会長始め役員諸師が宗門に大きな流れを築かれんとばかりに討論された姿は今も脳裏に浮んでまいります。当時の私は諸先輩に圧倒された言葉もなく、まして将来自分その立場にならうとは想像もできなかつた。しかしながら、いつも「青年僧はずでに第一線」という思いを持っていました。「次代を担」などと言われると、今は誰せんた」と反発すら感じ、「青年僧結集せよ」の呼びかけに大きな期待を抱いたものであります。以来、全曹青は順調に発展し第五期では十周年を盛大に祝い、第六期は全曹青年宗侶の加入を頼み団体加入が断行され、今や加入曹四十五団体、会員三千五百余名という仏教団体最大の青年僧組織となつてゐるのであります。

この第七期も種々企画いたしました。中でも「シルクロード博覧会」連行事は大きな事業でした。苦勞もしましたが意義もあつたと思ふ。東大寺法要の打ち合せ会はそのそれぞれの宗派、地域青年会代表の出席でもつと緊張した会議でした。中でも善弁に窮し思つた。二十百年前の大仏眼法要の時も今と同じ会議が開かれ、同じ質問が出、同じように混乱しつたに違ひありません。しかし先人は、と語つた時のことは忘れられません。やはり、仏教徒同志の会議だったので。一瞬にして「なごやかなら、以後は楽しい会議でしよう」と互いの共通する基礎を確認し合うことで大団結を「何」とも成功させよう」と誰かと思ひ始めたものであります。青年宗侶諸兄、仏法興隆正義の願ひの前、に何の差障りがあるのでしょうか。自らのつままぬ意地は捨て、その立場立場で共同の目標の為に精一杯努力しなければ前走はありませぬ。思えば二年間は前を見ればかりで振り返る余裕もありませんでした。数々

のご好意をいただきながら、礼を失することも多かつたと思ひます。ご協力がいただきました皆様、ご理解いただきました皆様に改めて感謝申し上げますとともに、不行届きの点はお許しいただきたいと思ひます。また、各地の曹青大会等に出席させていただきました。各々の地でも曹青OBの暖かい支援のもとに現役曹員が活動していることを知り、曹青活動でつちかわれた道心をも持ち続けられる多くの先輩によって曹青は守られ発展していくことを実感させていただきました。かつて不惑を迎えられた先輩に「あの燃えるような情熱を消すことが、惜別の言葉を贈つた私ですが、今後はこの言葉を自分の金言として精進したい」と思ひます。

い、ため会長を支えて下さった役員諸兄、ありがとうございました。第八期伊藤新執行部の活躍と仏法興隆の願ひを寄せて全曹青の発展を祈念いたします。 合掌

尼 僧 田	北海 第二	秋 道 第一	山 形 第一	青 森 第一	宮 城 第一	新 潟 第一	富 山 第一	石 川 第一	福 井 第一	鹿 野 第一	長 野 第一	宮 崎 第一	熊 本 第一	佐 賀 第一	大 分 第一	四 国 第一	島 根 第一	山 口 第一	廣 島 第一	兵 庫 第一	和 歌 山 第一	奈 良 第一	大 阪 第一	滋 賀 第一	三 重 第一	岐 阜 第一	評議委員(続き)
井川悦道	梅沢加盟	柳川浩二	越中谷恒道	小田祥興	三宅俊昌	藤田秀典	未加盟	川端真美	未加盟	未加盟	重沢義文	野口善俊	池田大智	中村哲彦	平岡久利	栗田光満	岩田泰成	西村峻山	吉川哲彦	石見晋吾	菅原尚	酒井基房	富田利昭	渡辺益道	桂川孝三	北朝宗水	
佐藤悦成	松本雪幸	吉村明仁	寺田道長	村上芳典	目黒修道	竹俣昭孝	木南広峰	前田弘道	無着至純	栗田秀瑞	原田秀夫	酒井秀瑞	福田文英	山田邦博	山形一	遠藤和光	矢野元	文殊清彦	吉津弘道	時岡泰俊	笠神雅彦	宮崎良章	中村哲元	岡野聖弘	長谷川寛孝	副委員長	
		特別委員会			委員	副委員長	委員	委員			委員					委員					委員						
		全日仏曹青																									

